

平成26年度
宇治市小中一貫教育についてのアンケート
報告書概要版



宇治市教育の日シンボルキャラクター：ハチャ君

平成27年1月
宇治市教育委員会

I 実施概要

1 目的

小中一貫教育をはじめとした本市学校教育の推進及び今後の教育施策の参考に資するため、学校教育に関する児童・生徒、保護者の意識や意向、学校の状況などについて把握するとともに、これまでの調査の結果をもとに経年比較を行う。

2 対象

- (1) 宇治市立全小学校 第5～6学年の各学年1クラスの児童と保護者
- (2) 宇治市立全中学校 第1～3学年の各学年1クラスの児童と保護者
- (3) 宇治市立全小・中学校

回答数	児童・生徒	計	2,207名	(回収率 99.7%)
	保護者	計	1,785名	(回収率 80.1%)
	学校	計	32校	(回収率100.0%)

3 実施時期

平成26年6月16日(月) ～ 7月4日(金)

4 設問項目

- (1) 小中一貫教育のねらい・取組に係る7項目
(児童・生徒、保護者、学校)
- (2) 小中一貫教育への意識に係る3項目
(児童・生徒、保護者、学校)
- (3) 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて
(小学校6年児童、中学校1年生徒)

Ⅱ 結果

1 ねらい・取組、意識について

「授業はこれまでに習ったことや中学校で（これから）習うことにふれて進められていると思う。」の設問に対して、児童・生徒の81%が「そう思う」「だいたいそう思う」と回答（以下、肯定的回答という）しています。多くの児童・生徒が小・中学校9年間を見通した「系統的・継続的学習指導」を実感していることが伺えます。

同じく「教科担当制」（小中教科連携教員）、「児童・生徒交流」、についても児童・生徒、保護者の評価はそれぞれたいへん高いものです。

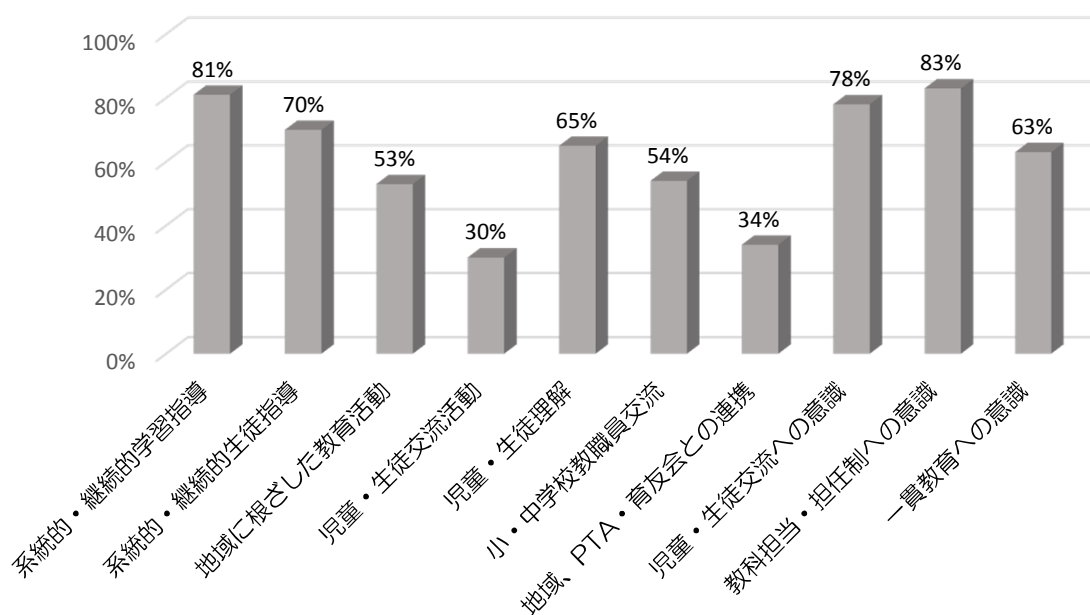
経年比較では児童・生徒でほぼ全ての設問、学年で「肯定的回答」の割合は増加しており、特に中学校1年生と中学校2年生での増加傾向が顕著になっています。

これらの点から、小・中学校のなめらかな接続を目指した取組が着実に成果を上げていると考えます。

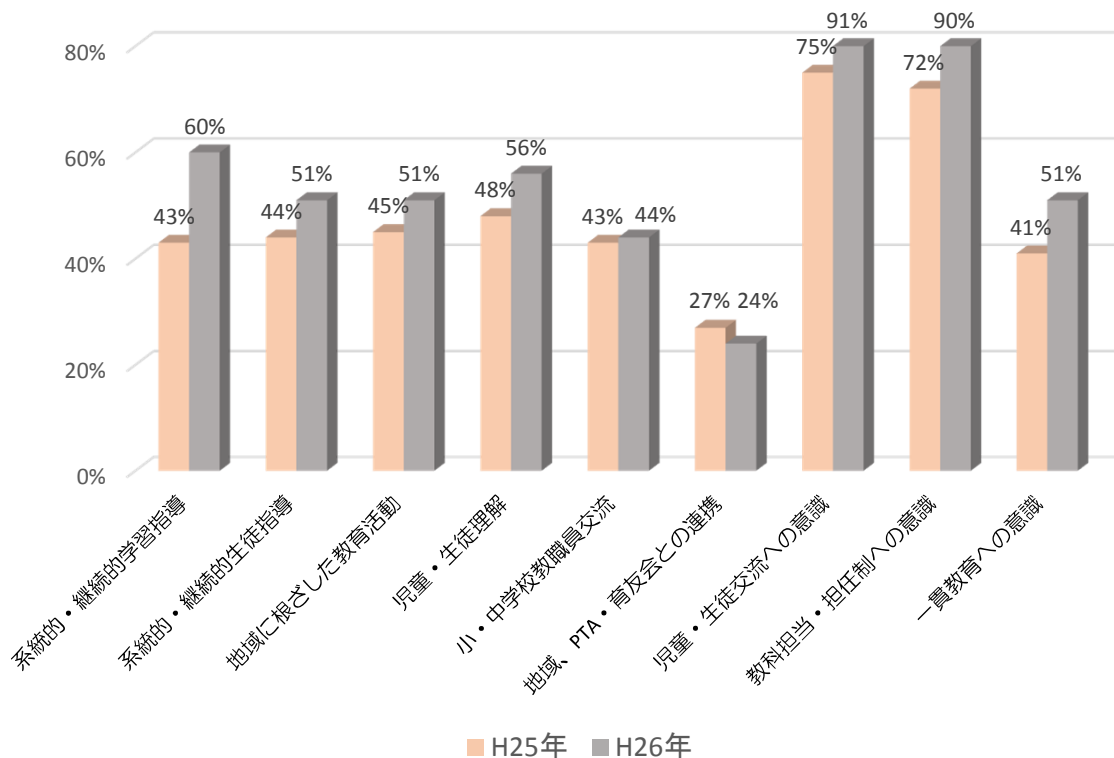
これまで課題とされてきた小中一貫教育の取組に対する保護者の理解については、児童・生徒と比較すると保護者の「肯定的回答」の割合は総じて低いものの、経年比較ではほぼ全ての設問で「肯定的回答」の割合は増加しています。保護者の理解は確実に深まりつつあることが伺えます。

今後も地域社会・保護者との相互連携の取組をさらに充実させることにより、保護者の小中一貫教育の取組に対する理解をさらに深めていく必要があると考えます。

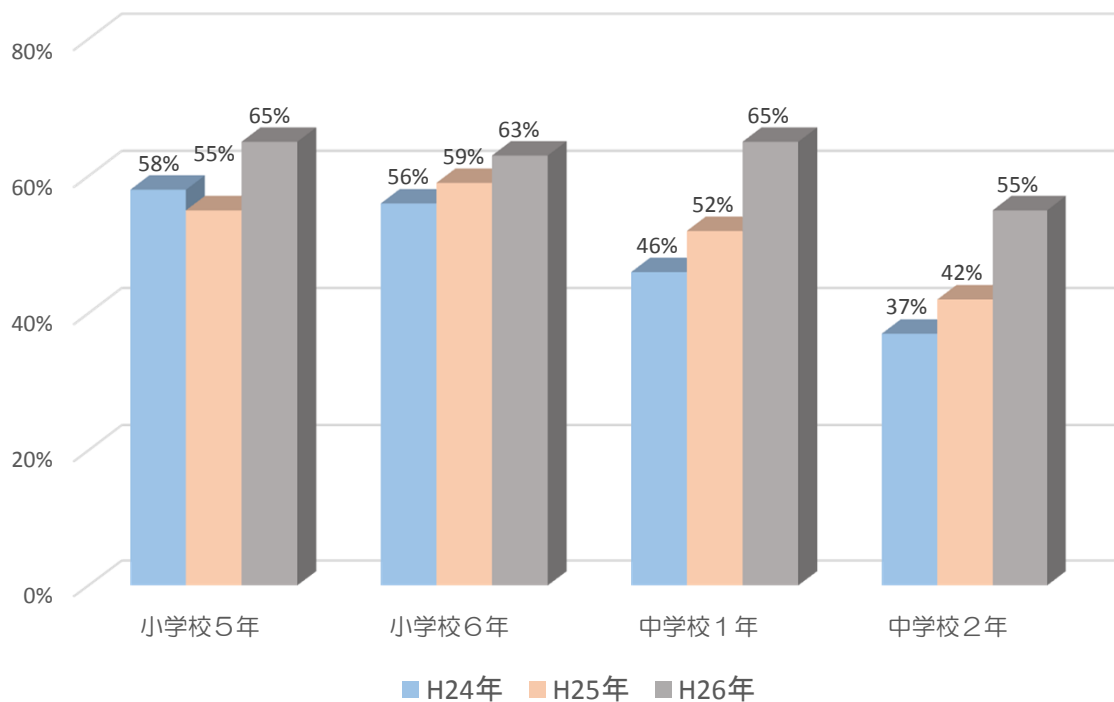
児童・生徒 「それぞれの取組を実感したり、評価している割合」



保護者 「それぞれの取組を実感したり、評価している割合の経年比較」



児童・生徒「それぞれの取組を実感したり、評価している回答割合の学年別経年比較」



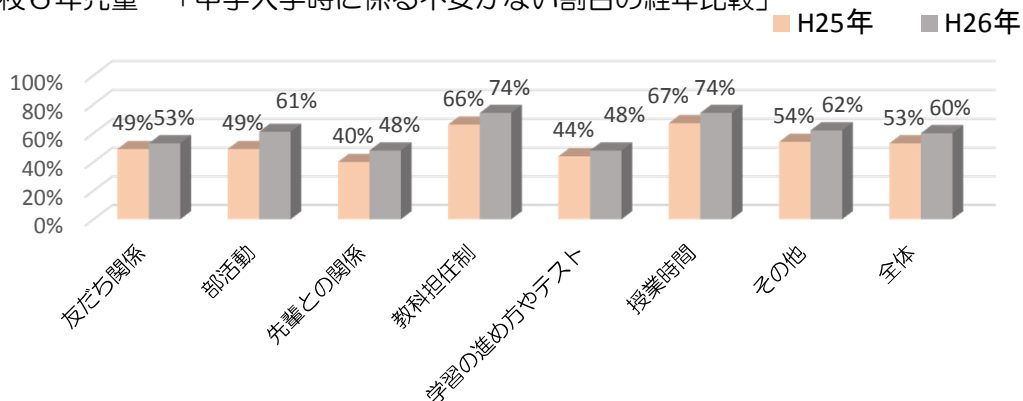
2 中学校入学に係る心配や不安・悩みについて

「中学校での部活動」について「不安や悩みがない」と回答した児童の割合は平成25年度の49%から平成26年度には61%に増加しています。この設問を始めとした全ての設問において平成26年度は「不安や悩みがない」と回答した割合は増加しています。

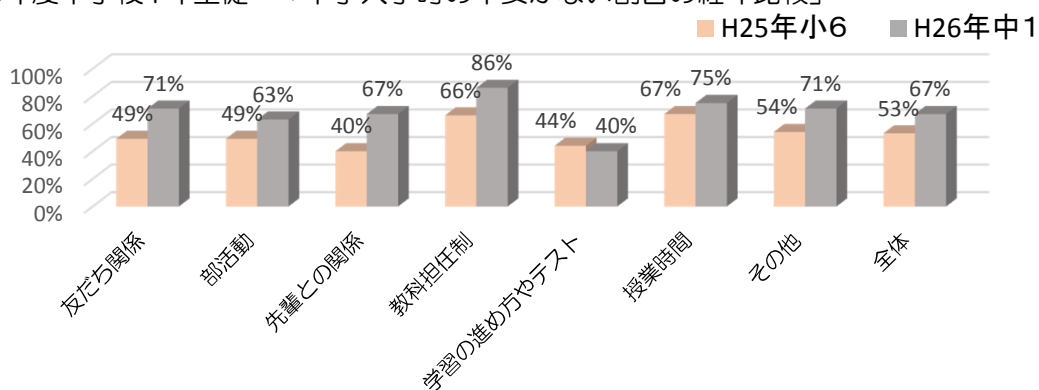
この点からも小・中学校のなめらかな接続を目指した取組が着実に成果を上げていると考えます。

平成26年度中学校1年生と平成25年度小学校6年生の同一児童・生徒集団の比較では、ほぼ全ての設問で「不安や悩みがない」と回答した割合は増加していますが、唯一、「学習の進め方やテスト」では小学校6年生の44%から中学校1年生では40%に減少しています。今後は「系統的・継続的学習指導」において、さらに「学習進度や定期テストに対する児童・生徒の不安」に視点をあてた取組が重要であると考えます。

小学校6年児童 「中学入学時に係る不安がない割合の経年比較」



H26年度中学校1年生 「中学入学時の不安がない割合の経年比較」



※不安や悩みがない割合

3 施設や分散進学の状態における比較について

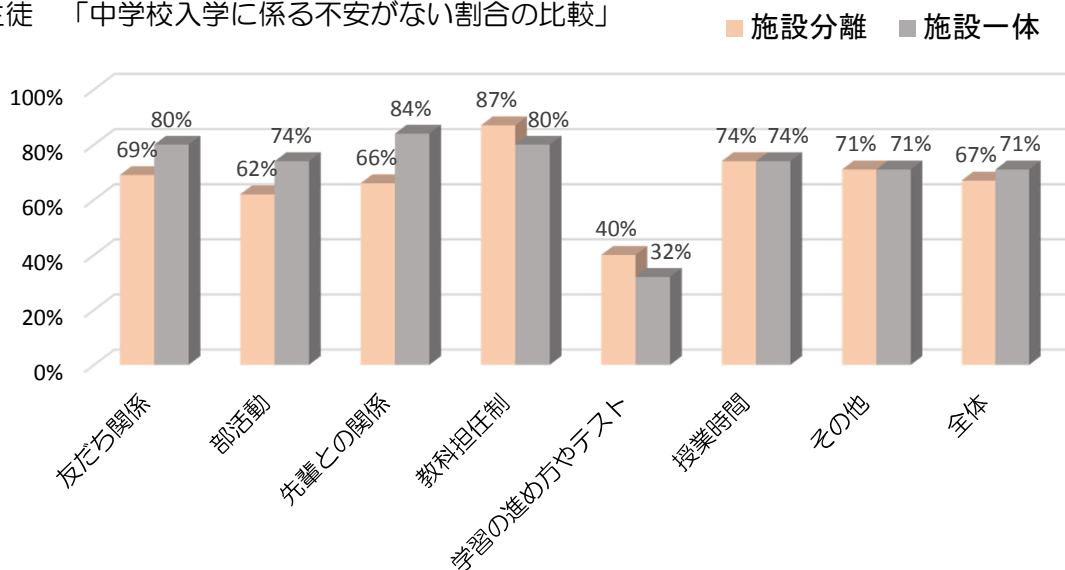
(1) 施設について

「中学生（小学生）といっしょに活動していると思う。」の設問に対して、施設一体型小中一貫校（以下、一体型という）の児童・生徒の「肯定的回答」の割合は63%ですが、施設分離型小中一貫教育校（以下、分離型という）では28%と顕著な差が現れています。同じく、保護者では一体型の「肯定的回答」の割合は72%ですが、分離型では23%にとどまっています。

「中学校入学に係る不安や悩み」についての「中学校での先輩との関係」の設問では一体型の中学校1年生の「不安や悩みがない」と回答した割合は84%ですが、分離型の生徒では66%にとどまっています。同様に「友だち関係」「部活動」の設問では一体型の中学校1年生が悩みを持った割合は分離型の中学校1年生と比較して低くなっています。

一体型はその有利性をいかした取組を進める中で、「児童・生徒交流」が進み、分離型との比較では主に人間関係における「中学校入学に係る不安や悩み」が少ないという一体型の教育効果が現れていると考えます。

生徒 「中学校入学に係る不安がない割合の比較」

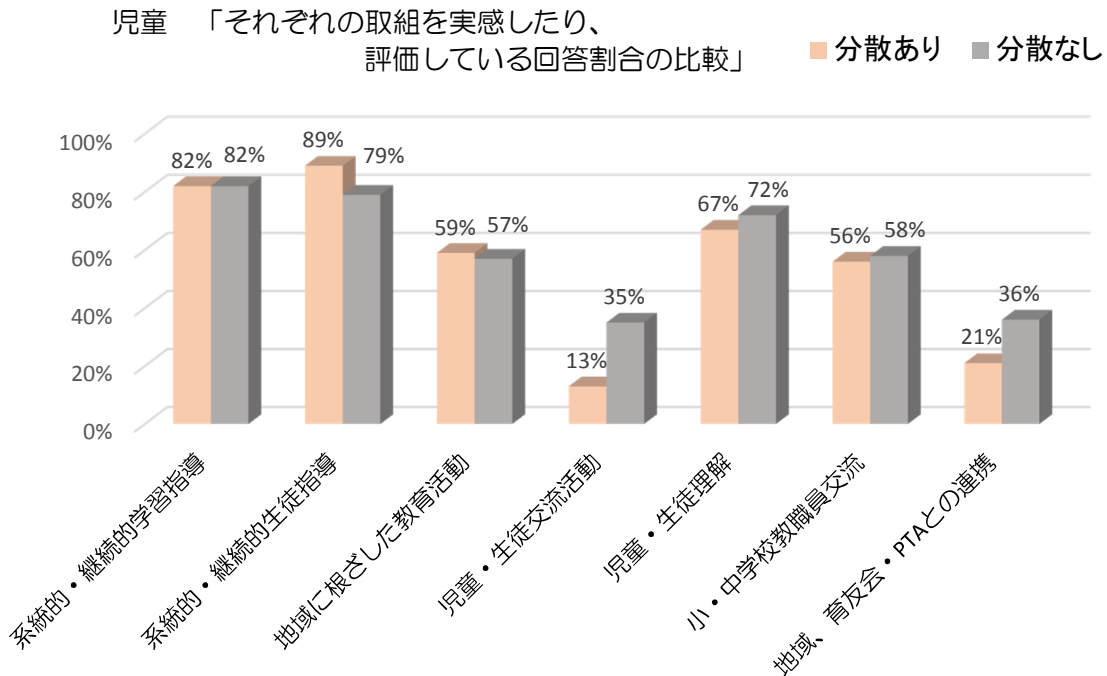


(2) 分散進学について

「中学生（小学生）といっしょに活動していると思う。」の設問に対して分散進学がない学校の児童の「肯定的回答」割合は35%ですが、分散進学校の児童の割合は13%にとどまっています。同じく生徒や保護者に対する「児童・生徒交流」の設問でも「肯定的回答」の割合は分散進学がない学校の方が高くなっています。

また、保護者においては「地域、PTA・育友会との連携」の設問でも分散進学がない学校の方が「肯定的回答」の割合が高くなっています。

分散進学における比較では、「系統的・継続的学習指導」を始めとした児童・生徒への指導面においての差は見られないものの、具体的な取組である「児童・生徒交流」や「地域、PTA・育友会との連携」において差が現れています。



Ⅲ まとめ

小・中学校のなめらかな接続を目指した取組が
着実に成果を上げている。

小中一貫教育の取組に対する保護者の理解は着実に深まりつつあるものの、
今後も地域・保護者との相互連携の取組を
さらに充実させていく必要がある。

小・中学校9年間を見通した
「系統的・継続的学習指導」についての取組を進める中で、
さらに「学習進度や定期テストに対する児童・生徒の不安」に視点をあてた
取組が重要である。

施設一体型小中一貫校では分離型小中一貫教育校に比べて
人間関係についての中学校入学に係る不安や悩みは少ない傾向にある。

分散進学校と分散進学がない学校では、
「児童・生徒交流」「地域、PTA・育友会との連携」について
の差が見られる。